

令和4年度 第1回吉野町教育振興審議会 会議録

日 程 : 令和4年10月7日(金) 午後7時00分～
場 所 : 吉野町中央公民館2階 第3研修室

出席者 : 奥田委員、杉村委員、吉寄委員、河崎委員、南辻委員、佐々木委員、米谷委員、
山下委員、竹内委員、木谷委員、吉中委員、山田委員、森本委員、中山委員
事務局
土居教育長、上林教育次長、細川、中前

1. 開会

事務局 皆様にはご多忙の中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから、「令和4年度第1回吉野町教育振興審議会」を開催させていただきます。私は、教育振興審議会の事務局を務める吉野町教育委員会事務局次長の上林でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 委嘱

事務局 本日の吉野町教育振興審議会の開催につきましては、平成29年度に「吉野町に適した小中一貫教育のあり方について」の諮問答申以降、初めての開催となりますので、新たに当審議会の審議委員にご就任頂きたく委嘱状を伝達致します。本来なら中井町長から委嘱状を伝達させて頂くのが本意ではございますが、本日、公務出張のため、やむをえず出席させていただいておりません。町長に変わりました、吉野町教育長の土居教育長から、委嘱状の伝達を行わせていただきます。なお、おそれいりますが、お時間の都合上、代表として、よしのさくら学園PTA会長南辻様、代表してお受取りください。

—————委嘱状交付—————

事務局 ありがとうございます。なお、委員の皆様の委嘱状につきましては、お席の方に置かせていただいておりますので、ご確認のほどよろしくお願いいたします。それでは開会に先立ち吉野町教育委員会教育長、土居がご挨拶申し上げます。

3. 教育長挨拶

教育長 改めまして皆様、こんばんは。今日は雨が降りまして、足下が悪い中、お忙しい時間にお集まりいただき、ありがとうございます。吉野町の将来の子供たちのためということで、お知恵、力を授けていただければと思います。先ほど事務局からもあったと思いますが、本町で教育振興審議会を開催いたしますのは、平成29年の小中一貫教育のあり方についてというテーマで開催

させていただいて以来になるかと思えます。令和4年4月より、小中一貫教育校と名打つ、吉野さくら学園が開校いたしました。旧吉野小学校、旧吉野北小学校が統合し、新吉野小学校となり、吉野中学校と同じ校地に、一つの職員室で教育活動を進めております。統合初年度ということで、今年度は大変、いろんな課題が山積しておるものと思えます。或いは歩きながら採決している課題も多いことかなというふうに思っております。先生方には、苦勞をかけておりますけれども、理想や目標を共有しながら、前向きに進んでいただいているものと喜んでおります。

先日、さくら学園の第1回運動会が開催され、見させていただきました。小学校が約160名、中学校が約100名という児童生徒たちがグラウンドに一堂に並んだ姿というのは、やはり見事なもの。これだけそろっているのはやっぱりいいなと思えました。開会式の後、先生方のご指導もあり、大変だったと思えますが、児童生徒たちはそれぞれ競技の準備や片付け、或いはスタートや決勝というような役割を担って、円滑に体育大会が進んでいく様子を見させていただいて、昨日まであんなちっちゃかった、幼稚園であんなことしていたのに小学校になったらここまで出来るんだという、より大きな集団の中で、大きく成長している姿を感じさせていただきました。楽しいなという印象を強く持たせていただきました。紹介と報告をさせていただきました。

さて、今晚開催させていただく教育振興審議会のテーマは、「吉野町立認定こども園の将来的あり方検討について」という小学就学前教育段階の話ということになります。本町の状況、或いは本町の持つ課題をご理解頂きたいと思えます。のちほど説明させていただきます。また少し古い話になりますが、中教審の初等中等教育の分科会におきまして、「子供を取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育のあり方について」という方針が「幼児教育の意義や役割」と言う項で書かれています、どのようなものを書かれているかという、家庭は愛情やしつけを通して、幼児の成長の最も基礎になる心身の基盤を形成する場である。また、地域社会は様々な人々との交流や、身近な自然との触れ合いを通して、豊かな経験体験がえられる場である。そして幼稚園等の施設は、幼児が家庭での成長を受け、集団活動を行いながら、家庭では体験できない社会文化、自然などに触れ、教員等に支えられながら、幼児期なりの豊かさに出会う場というふうな位置付けがなされています。また新しいところでは、幼保連携型認定こども園教育・保育要領というものがございますが、ここには、園児の教育及び保育に関するねらい、或いは内容が列挙されています。健康、人間関係、環境、言葉、表現等の項目がありますが、幼児期の終わりまでに、育って欲しい姿として列挙されている言葉があります。健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・命の尊重、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い、豊

かな感性と表現々、言葉が並んでいます。そのあたりが、目指すもの。小学校に入る前に、身につけておいてほしい内容であると示されています。小学校以前のこの基盤というものは、非認知能力というふうな言われ方もします。小学校以降の学力形成に非常に大きな基盤となっていく能力であると提示されています。もう一つ大切なものとして、小学校との連携、継続性というものがあります。最初に申しました通り、吉野町の小学校は今年統合され、町で一校になりました。その影響というのも考える必要があると考えます。ご承知の通り、本町においても、少子高齢化の進展は非常に著しいものがございます。また、小学校が町に一つとなった今、こども園のあり方を改めて検討していただく機会とさせていただきたいというふうに思っています。

本審議会は、今年度と来年度を予定しています。今年度は、こども園の現状課題を認識していただき、あるべき姿のご議論をいただき、本町の就学前教育の質を維持、或いはより向上させる方策の建議をいただけたらというふうに思っております。来年度は、そのいただいた建議に従って、具体的なこども園の内容を議論いただきたいと思いますと考えています。このような大きなテーマにも関わらず、開催回数が非常に限られております。申しわけないことと思っておりますが、本町教育委員等とも語りながら、よりよい形のこども園を、探っていきたいというふうに考えております。どうぞ吉野町の将来の、人材育成を見据えた、そして、子供本位の就学前教育がなされますこと、そんなご議論を期待いたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 委員紹介

事務局 それでは私の方から、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。お名前を申し上げますので、恐れ入りますが、ご起立のほど、よろしくお願い申し上げます。それでは、本日配布しております委員名簿の方ご覧いただきたいと思います。名簿順にご紹介させていただきます。

———各委員紹介———

5. 会長、副会長選出

事務局 次に吉野町教育振興審議会設置条例第5条第1項に審議会の会長及び副会長を置く。第2項に会長及び副会長は委員の互選によって定めるとありますので、会長の選出をお願いしたいと思います。どなたかご意見ございませんでしょうか。

委員 前回小中一貫校開校に向けた振興審議会で会長としてよりよい方向に適切に導いていただきました。日本大学経済学部教授の奥田先生にお願いできたらと思いますが、どうでしょうか。

事務局 ありがとうございます。吉中委員から前回の会長にお願いということで、

奥田先生にご推薦がございました。委員の皆様どうでございましょうか。

委員 異議なし

事務局 ありがとうございます。では、ご異議がないようですので、会長は奥田先生にお願いしたいと思います。奥田先生、よろしいでしょうか。

奥田委員 よろしくお願ひいたします。

事務局 よろしくお願ひ致します。では会長席にお願いいたします。続きまして、副会長についてご意見ございませぬか。

委員 事務局一任でお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。ただいま、事務局一任の声がございました。よろしいでしょうか。

委員 異議なし

事務局 それではこの委員会はこども園のあり方に関わりますので、よしのこども園育友会会長、わかばこども園育友会会長のどちらかでご協議いただきまして、山下よしのこども園育友会会長に、副会長をお願いしたいと思います。皆様よろしいでしょうか。

委員 異議なし

事務局 ありがとうございます。それでは、山下様、副会長席にお願いいたします。

山下委員 よろしくお願ひいたします。

事務局 早々ではございますが、会長に就任されました奥田先生にご挨拶をお願いしたいと思います。

6. 会長挨拶

会長 会長職を務めさせていただくことになりました、奥田です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。何かと不十分なところがあるかと思いますが、先ほど事務局から話があったように2年間に渡っての審議ということで長丁場になろうかと思いますが皆様にご協力を頂いきまして、会長職を務めてまいりたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

現在は東京の大学で勤務しておりますが、元々は奈良県の学校で17年間勤めてまいりました。その後、県の教育委員会で14年間勤務し、その後地元の大学でも少し教鞭を執って、今は東京の大学にいますが、実生のほとんどは奈良で過ごしていました。教育委員会にいた時は吉野町の学校を訪問させていただきました経験もあるので、引き続いて奈良の教育、吉野町の教育に携わることができることにうれしく思っています。よろしくお願ひいたします。

私、経済学部にて在籍しておりますが、教育学が専門でゼミも教育学を担当しています。ゼミ生の半分ぐらひは、教員採用試験を受けるということで、奈良県は9月に教員採用試験の発表があったと思いますが、関東は今頃が時期で2日前に千葉、茨城と出そろってきて、ゼミ生の中にも上手くいった学

生や悔しい思いをした学生もいます。昨日、ゼミがあって、学生が両方いるなかで言葉を選びながら話していました。

実は昨日の夜、5年前に、私がちょうど今の大学に着任した時の4年生の教職生の学生から電話がありました。千葉県は中学高校で教員を一括採用するので、中学高校で採用されてどちらにいくかわからないという採用形態ですが、中高の社会の先生の採用試験を合格しましたといううれしい電話をくれた卒業生がいました。教員免許だけとって、民間企業就職する学生が本学においても多い中、彼は民間企業に就職せず、5年間アルバイトしながら、役者を目指していました。その学生から、採用試験に合格しましたと連絡がありました。役者では生活できないので、学習塾でずっとアルバイトをしていたようです。進学塾ではなく寺子屋のような学習塾で、彼が担当するのが4・5人という少人数の塾講師をやっていた。来ている生徒の中には不登校傾向の子や親に言われて来ている子などいろんな背景の子を講師として5年経験して、低学力の子もいる中で、自分のわかっていることだけ伝えても理解できない。どうやって説明したら子供たちが理解してくれるか、子供どうしてどうやって学び合わせるとお互い学習意欲がたかまっていけるかを考えながら、塾講師をやっていました。昨日、解けなかった問題が解けてすごく喜んでいる姿を見て、やりがいが出てきた。子供間同士の自尊感情の高め合い、私の授業でもやっていて実践していますと言ってきて、子供たちが意欲を出してくれる場面を見て、教育はいいなと感じて、去年から採用試験の勉強をして、今回の結果を報告してくれました。子供の自尊感情はあるのですが、先生の自尊感情・自己肯定感、役者の世界では自分がいなくても、エキストラで行くと自分が都合悪いとなると次の人となってしまふ。学習塾においては自分がすべての存在感。そういうことで逆に言うと、子供たちから自分の自尊感情、自分を大切な存在であると子供たちが認めてくれている。大学の授業で子供の自己肯定感の話をするのですが、先生における自己肯定感も大事ということに彼自身もそれを感じて、教職をもう一度目指そうとした。

今回、ご審議頂く内容に関して、子供たちの姿も大切ですし、先生方の姿も大切という両面を持って見ていく必要がある。今の学習指導要領に求められる対話的な学び、そういった子供間同士の高め合いということも教育において大切であると、今回の電話で改めて感じました。そういったものを担当し高められる。この審議についてはいろんな立場で、皆様方からご意見をいただくことが大事だと思っておりますのでよろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは、規定によりまして、以後の議事進行につきましては、奥田会長にお願いしたいと思っております。進行よろしくお願ひいたします。発言の際に、前のマイクのボタンを押していただきますとマイクが赤く点滅しますので、発言いただいて終わりますと切っていただきますと消えますのでよろしくお願いします。それでは会長、お願いします。

7. 諮問

会 長 それは進めさせていただきます。まず、次第の7です。吉野町立認定こども園の将来的なあり方について（諮問）について事務局から説明をお願いします。

事務局 この組織の所掌事務につきましては、「吉野町教育振興審議会設置要綱」第2条に、「審議会は、教育委員会の、諮問に応じて、こども園・小中学校の振興に関する事務について審議し、教育委員会に建議する」とあります。

それでは、吉野町立認定こども園の将来的なあり方についての建議を求め諮問を行わせていただきますので、奥田会長、土居教育長、前にお進みください。なお皆様の、お手元には諮問書のコピーを置いてありますのでご確認いただければと思います。

教育長 ——諮問書読み上げ——

8. 審議（1）

会 長 それでは、1番の「吉野町立認定こども園の現状と課題について」事務局の方から説明をお願いします。

事務局 それではホッチキス止めの資料1、吉野町立認定こども園の現状と課題という資料をよろしくをお願いします。なお本日は遅い時間からの開始でありまして、資料は事前に配布させていただいておりますので、時間の関係上、要点だけを説明させてもらう形で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

会 長 結構です。お願いします。

事務局 【資料1】の要点を絞って説明——

会 長 ありがとうございます。それでは資料1で説明いただいた内容で何かご質問ないですか。後で共有時間をとらせていただきます。今の時点で何かございますか。よろしいでしょうか。

2園のこども園の現状と課題についてご説明いただきましたので、私の方からいくつか要約させていただきたいと思います。まず施設に関しては、両園の建築が40年以上経過し、そういう点。そしてそれぞれのこども園については、よしのこども園については、水回り、給食室また、教職員の負担が大きい。両園とも防犯的な部分で課題がある。また、わかばこども園については、校区の関係もあり、バスに50分ぐらい乗らないといけない子がいるという課題がある。

また、教育方針とかサービス等については資料18ページにあったと思いますが、まちの政策として、給食費の無料化とか、バス無料化、0～5歳児の保育料無料化をされている部分においては、吉野町に限ったことではないが、財政的な部分においても負担が大きいという現状があることは資料から読み取ることができる。

園児数について、3・4・5歳児等においてよしのこども園は17人・17

人・9人に対して、わかばこども園は3人・5人・4人ということで、園児数がわかばの方がよしのに比べてかなり少ないという現状があるのも今後検討していかないといけない内容になってくると思います。わかばの来年度の入園者というのは、何人になる予定かわかりますか。

事務局 今の時点で3名の予定です。

会長 あまり現状と変わらない状況が続くことになる。特に子供たちの学びということを審議していきたいと思います。この辺りの現状を杉村先生の方からお願いします。

杉村委員 大学の方で保育士過程と教職課程で、幼稚園実習や教育実習に取り組んでいる立場ですが、幼稚園保育所に子供が通う理由はいくつかあると思います。学生たちに言っているのは友達と関わるために園に入るとするのが大きい。子供同士の関わり、集団の中での成長のところでいろんな子供たちがいる中で、集団で遊ぶために来ているのかなという部分も大きい。教員・保育士は子供たち同士でいろんなことを体験して解決していけるのであれば先生たちは黒子の存在で、保育士の役割は子供同士をつなぐことが役割であると言っています。子供同士をつなぐにしてもある程度の人数や規模がないとつながぐこともできない。子供たちも友達や集団生活で起きるトラブルを解決できない。トラブルを経験することは様々な成長につながる。いろんな友達がいって、いろんなトラブルから学んでいくのが大事だと思います。学年ごとにもある程度の人数・規模があって、いろんな友達と集団活動をするのが大事だと思います。

学年単位の話ですと、今時の例ですと、コロナで運動会を学年ごとにやるところもある。親御さんの的にはそちらの方がいいとおっしゃっていました。子供の映像がビデオではっきりとれるからだそうです。それはもったいないことだと思っています。学年内でも集団的学びをするが、4歳児が5歳児の素敵な演技を見て憧れをもって、モチベーションを高めたり、自分たちもやりたいと思う姿。密だから仕方がないが、学年を超えた集団の学びも子供たちにとってはわくわくするもので大事な部分だと考えています。集団でもある程度人数・規模があったほうが、いいと思います。学びが増えるという観点から人数・規模は必要だと感じます。

会長 県内の学校とか園の実状についてご存じである河崎先生どうですか

河崎委員 私は県で公立幼稚園の所管をしております。公立幼稚園の数もだんだん減少していっています。理由としましては、保育を必要とする子供が増えたということで、こども園が増加している現状です。実際に、学ぶ力はぐくみ課の就学前教育センターには県の就学前教育アドバイザーというものが3名常駐しています。アドバイザーが園から要請を受けて、支援をさせていただいております。

過疎化で人数が減っている園に行かせて頂いた時に、なかなかトラブルがなく、けんかがなく、いいところでは先生方がきめ細かく見て頂けるという

ことで園児2人に先生1人という現状があり、子供が何かしたいという前に先生が察して手を出してしまうことで反省ありますという話を聞きます。遊びの中でいろんなことが起きて子供たちで解決させるようにもっていく指導をしてくれているようです。

集団が大事ということもありますが、人数が少なくても工夫はできるかなと思っています。私が小学校教諭なので、小学校教諭の時に同僚の先生が人数の少ないところの出身の方で、その方が言うにはどうしても人数が少ないとマイナス面に見られがちであるが、いいところもたくさんあって、勉強が分からないところがなかった。わからないことがわからないと言っていました。先生たちがきめ細かく見ていただけるので、自分たちで解決もするが、学習内容に関してもじっくりしっかり教えていただけるのでありがたかったと聞いています。人数が少なくても工夫でなんとかできるかと考えています。

会長 ありがとうございます。直接、教育に携わっている両先生からコメントをいただきました。特に子供同士で学びあうことが重要な年代の子供たちがいることを念頭においておかないといけない。また子供の数が少ないというのが、100%マイナスということではなくて、教育的な内容を教えるという部分においてはきめ細やかな教育もできるということで両面からお話をいただきました。発達段階において、まず何を大切と考えるべきかについても今後は議論していくところがあると思います。決してすべてがプラスですべてがマイナスではないという観点で話をいただいたと思います。この両先生の話で聞きたいこと、ご意見ございますか。保護者の立場で意見ございませんか。

それでは、次、もう一つの観点は先生の観点です。今、子供についての観をお伺いしました。職員の数よって、教材の準備や、園で行う諸事務の負担があると思いますので、この点については関わっていただいております森本園長、中山園長の方からコメントいただきたいと思います。

森本委員 よしのこども園では園児数が多いということで職員も必要な配置に入っております。保育を利用するこどもたち、長時間利用する子供たちの人数が多いということで3歳児において、午前から午後4時半まで担任がみているという現状があります。先生方の研修という部分で時間の確保が難しいところがあります。子供の状況や保育の内容については日々翌日の保育に必要なことですので、少しの時間を取りながら共通理解をするように時間を設けています。質の向上や保育の内容を詳しく知る。子供たちの実態把握はできてもどのように伸ばしていくかという共通理解と検討をする時間は難しくなっています。

幼稚園のように2時で帰園され、勉強会や研修できる時間はうらやましいと思います。

会 長 ありがとうございます。続いて、中山園長さんお願いします。

中山委員 職員側から言いますと、職員配置を十分していただいて、職員研修をする時間も取らしていただいております。園児数も減ってきておりますが、子供の立場から見ますと、集団としての活動の生活に、周りのなかに自分と同じ意見、違う意見といういろんな意見が少ない。3人であれば3つの意見しかない。自己肯定感から考えると難しいというところと、トラブルを経験して、解決をする力というものは小さいころから培われるものであって、大きくなって培われるものでないと思っています。日々の保育の中で教師はどうしたら力をつけていけるか考えて、年齢活動を取り入れたり、工夫をしています。異年齢活動をする、同年代活動の集団の活動が難しい。異年齢活動をすることで、どの年齢に焦点をあてて、どう組み立てるかの難しさもあります。課題ばかりではないですが、今は課題だけを話させていただきました。

会 長 ありがとうございます。両園とも、それぞれ担当される先生の条件の中で精いっぱい頑張って教育されている現状をお話いただきました。今後も課題については議題に挙がってくると思いますので、両園長先生からコメントいただけることがあればよろしくお願いします。

私の方で、4名の委員さんの方から発言をいただきましたが、今回の審議会では広い視野で審議を行うということになっています。今回、私たち入れて14名の委員が集まっておりますので、まずお一人ずつ現状で、何か考えている内容で、ご意見をちょっと出していただけたらなと思っておりますので、先ほどコメントいただいた委員さんの方でも、つけ足してこんなことがあればということで、結構ですので、時間の関係もありますので、3分程度で、今の時点で思っておられることを出していただいて、こういう考え方があるということも我々会長副会長も把握したいと思っております。名簿の順で失礼ですが、お願いしたいと思えます。吉寄委員さんお願いします

吉寄委員 資料を拝見する中で感じたのは、働き方改革という文字もありますが、このこども園に勤めたいなと先生方が集まるような吉野町に魅力ある園ができればいい。働き方改革は先生方が働きやすい環境になればいいが、そこが達成され、上手くいくと、先生方の気持ちや時間に余裕ができてきて、子供たちに返していけるかと思えます。

定数のことですが、吉野町は他国籍の子供が数名いると聞いています。規模としては、わかばこども園は小さいですが、特別な支援が必要な子供たちがいると聞きました。その点からも先生方が学べる研修の機会を作っていただくことは社会の変化に上手く載って学び続けられるような先生が必要かと思えます。魅力ある園を作っていく2年間になればいいかと思えます。

南辻委員 上の子が中学生で下が小学6年生で、2人ともよしのこども園にお世話になっていたのですが、その時の園児の数から比べてびっくりしています。多かつた中でも先生方にはよくしていただきました。子供の数は減っていると思いますが、行き届いた形で教育・保育をされているということで人口推移の中、どうなっていくかわからないですが、こども園から離れていたのですが、そこに対する意識が薄れてしまっていたので、考えさせられました。

佐々木委員 わかばこども園に3人の子供がお世話になりました。小中学生になって、さくら学園に合併する時も一緒にやってきました。よしの・わかばのいいところがあるので、両方がどうなるにしろいい形で残してもらえればと思います。距離的な問題、吉野は広いので、園長先生にお世話になったので、これからもお願いしたいと思います。

米谷委員 ある程度まとまった人数が多い方がいいという話、人数が少なくても重点的に教育できるという良し悪しあると思います。個人の感想としては吉野町の財政や施設の老朽化に伴い1園になるのは仕方のないことかと思えます。1・2歳から私立に行かない限り15歳くらいまでクラス替えもなくずっと同じメンバーで十数年過ごし高校生でバラバラになる。1園になったとしても外に出た場合にコミュニケーションをとれるようになればいい。

竹内委員 この会議の内容は各区長さん方に知っておいてもらった方がいいのではないかと思います。小中学校の時は区長として話を聞いてなかった。会議はこの会でやってもらい、会の内容を区長さんにわかるようにしてほしい。

事務局 審議会の内容については審議会のスケジュールでも説明しましたが、定例教育委員会の中でも審議し、議会への報告も12月議会にさせていただく。3月議会も予定しています。ある一程の方針が決まれば、区長会の方にも、ご報告させていただきます。よろしく申し上げます。

木谷委員 私は、いつも朝歩いて、小学校の子供さんがバスに乗って行くときに、きちんと挨拶してくださります。あまり幼稚園の方と接する機会はないのですが、小学校の子たちとは毎朝会って、「学校どう？」と聞くと「楽しい」と言ってくれます。先生方も子供たちに対して気配りをさせていただいて、子供が楽しく通っていける状況を作ってくださっているのが大変喜ばしいことです。こども園の園児の数は減ってきています。人数関係なく子供が楽しく通学できる状況を作ってくださっているのはありがたいと思っています。

吉中委員 事前にいい資料をいただき、わかりやすかったです。子供の数ですが、多い方がいいと思います。子供たちはいろんな友達と接して、自分のいいところを見てもらって、逆に友達のいいところを触れて、けんかなどをして、社会に出たときに早いうちに経験しておいたほうがいい。少なかつたら過保護になってしまうのではないかと自分の子育てから思います。職員数は、多い方がいい。教員に余裕がないと笑顔が出ません。

それと、ニュース報道でもありましたが、バスの積み残し等で悲惨な事件が起きました。これがもし、教員2人乗っていたらまた結果違っていたと思います。教員が多ければ、それだけ少し過保護になると思うのですがその辺は、教員の自覚と研修でなんとかなると思います。

山田委員 私の息子ですが、保育園に入った時に発達の遅れがあり、その時に多い人数集団の中に入れてその中でもまれて成長していくということで早い内から入れました。先生方の話を聞いて昔と変わっていないということで保育の大切さを感じさせてもらいました。

小学校の立場から言わせてもらおうと、小学校では手厚い教員の補充をしていただき、ありがたいと思っています。小中一貫校になり、こども園との連携が進んでいる状態です。吉野町において15年間連続した教育を進めて、社会に出て行く子供たちを育てていかないといけないことを見据えて吉野町の現状のこども園のあり方はどのような形がふさわしいのかを改めて皆さんと考えていただけたというのは大事なことだったと思います。私自身勉強不足な所もあるので、意見交換してよい方向に進めるように努めていきたいです。

山下副会長 育友会長をさせていただいており、上の子が小学2年生で、下の4番目を10月にこども園に入れてもらいました。間に年長・年少がいます。4年ほど役員をさせていただき、学年によって人数が違いますが、自分の子を見ていると人数の多い・少ないの影響・違いがあるように感じます。先生や人数も問題がある中で、わかばこども園では人数が少ないということで、集団行動等を含めると、一緒になって地域的なこともあって今まで決まっていかなかった部分があると思いますが、小中一貫にならって、一つになって、地域で子供たちを守っていけるような環境をつくっていく必要があると思います。

個人的に保育園以外のところで少年サッカーの指導をしています。保育園でも吉野を中心に他の地域からも月に1回芝生のグラウンドで、20人くらいで1～5歳のスクールをさせていただいています。保育園自体の人数が少なくなっても、スポーツだけでなく、横のつながりがあるなかで、地域のコミュニティーの中で刺激を受けて、保護者間の交流や子供の交流があって、15年間同じ小中学校でなじみの顔の中で過ごすことになるかと思うけれど、地域での活動を含めて考えていけば、問題はないかと思っています。詳細の部分で決めごとが出てくるかと思うので、賛否出てきた場合には会議で話しをしていけばよりよいものになっていくのでは思っております。先生方には子供が1日お世話になっている部分で、大変な中でやってくださっていると思っているので、保護者として、協力体制をとらせていただきたいと思います。育友会の中でも会議等で子供たちのために保護者も楽しみながら会議を進めていけたらと思っています。

会 長 ありがとうございます。それぞれの立場でお意見いただきました。全体をまとめるとはいかないので、子供の立場で言えば、子供たちが互いに学ぶ機会を作ってあげることが大切ではないかというのが教育に携わっている委員さん・保護者からの意見いただいたと思います。先生の組織についても小さいより大きい方がいい。先生方がいろんな子供たちを見届けることも大事なという話もいただきました。2回目の会議等でご意見いただきたいと思います。続いて、審議の2番の保護者等へのアンケート調査について移らせていただきたいと思います。事務局の方からご説明いただきます。

審議（2）

事務局 ——アンケートの目的、対象者、時期、内容等を説明——

会 長 ありがとうございます。今、説明いただいた内容で何か、ご質問ございませんか。アンケートに回答いただく保護者の立場からご意見ございますか。もちろんそれ以外の立場でも。

委 員 アンケートを整理させるときに①性別を尋ねるところでどのように活用させるのですか。

事務局 この内容、何回か課内でいろんな意見聞いてやり直しました。実は一番下のところにお勤め先を聞こうと思っていました。例えばこのアンケートの回答が女性だったら、この夫の先は町内ですから町外ですか。まだ配偶者の方にお勤め先は町内ですか、町外ですかという項目を聞こうとしていました。それをすることにより、子育て、雇用、吉野こども園に子供を入れている方々が、どの地域方で働かれているのかというのを把握しまして、もし吉野町内で働いているより町外で働いている人の方が多ければ、それが男性女性区別して、何か政策が打てないか、いれようと思いましたが、今回は削除しました。これをみる限り、言われたように男女で聞く意図は今のところないかもしれません。

会 長 今の時点では①の項目は必要ないかもしれない。では①の項目は削除することでお認めいただけますか。特に政策に必要なことであれば今の時点では男女別で聞く必要がないと事務局で判断いただいたので、よろしいでしょうか。では①の項目は削除することに決定したいと思います。それ以外はどうでしょうか。

委 員 ④の個々の発達特性に応える教育をかみ砕いて教えていただけませんか。

事務局 特に支援が必要な子供に焦点をあてているのではなく、一人一人様々な特性があると思うので、一人一人に寄り添った教育を行うということです。

委 員 障害をもっているために学校に来られない人はこども園にも通えていないと思うので、そこにも対応するように考えているのか。人数が多い学校ほどいろんな人がいるので、こういうところをきちんとしてほしい。

会 長 ④の項目がそのままこども園の教育内容にスライドしていくことはないです。新しいこども園ができる時点において、それにふさわしい教育内容を協議して決めていくことになるので、発言いただいた内容について踏まえて今

後検討されていくと思います。④の部分で具体的に8つの項目がありますが、進行計画の内容が主になっていて、その他のところで保護者の方の考えを書いてもらうということでフォローするか、より多くの項目をつくるかになり、多くの項目を作るといろんな考え方が入ってくると思うので、その他の項目でカバーしていきたいと思います。それでいいのか、どうでしょうか。協議内容については各委員からご意見いただくことが出てくると思いますので、アンケート自体について④の項目で、記述の部分で書いていただく形でやっていきたいと思います。それ以外どうですか。

確認ですが、①は削除する。②③④⑤が①②③④に順番の修正ということで、取り込みいただいたということで、一応、それでアンケートをしていただいて、そして、次回の審議会でのアンケート結果について事務局からご報告いただく。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、今日の審議内容は(1)(2)で、(3)でその他とありますので、それぞれの報告で、この委員会の審議会で審議する必要があるということがあれば取り上げたいと思います。よろしいですか。

委員 質問よろしいですか。子供が50分バス乗るといふ話があつたがどのような感じですか。子供がしんどくなつたりしないですか。

中山委員 2方向に分かれてバスを運行しています。どうしても効率よく園児を乗せるためには50分乗ることになる。保護者の方にもご理解いただいて、園児さんも50分乗ってしんどくなる状況ではないです。

委員 親が早く起きないといけない。

中山委員 8時30分以降に乗車するようにしているので、大丈夫です。

委員 吉野町としては50分乗せて、他の方法はないのか。

事務局 それを解消するには、車両を多くするとかの対応はあるのですが、今のところよしの2台、わかば2台の園バスで運行しているので、あとはルートを変えるとかの方法で対応できなくはない。協議したいと思います。

委員 中学校でも1時間ほどバスの乗る子がいると話を聞いて、考えてあげてください。

事務局 さくら学園につきましても、8つのルートで運行しており、どうしても遠く1時間近くかかる子がいる。解消するには難しいと思いますが、検討したいと思います。

会長 50分乗っているのは何歳児の子ですか。

中山委員 3歳児です。

会長 そのあたり、今のわかば園の課題の1つ。今後どういふ園を考えるかといふところで一つ念頭におく必要がある。現状をどう解消できるかも考えていただきたい。その他よろしいでしょうか。

今回、これで審議の方終わりたいと思います。

9. 閉会

事務局 奥田会長、議事進行ありがとうございました。

閉会にあたりまして、教育長より、お願いします。

教育長 皆様方遅い時間になってしまいました。確立したと言っていいのか、ちゃんと考えていただいた 論議になったのと思います。事務局の方でさせていただいた資料 1-1 という資料は平成 27 年に吉野町の幼稚園がこども園に移行して、新制度に入ってから 2 園の実践記録になっています。2 園それぞれ特徴を持って、いろんな考え方や、或いは教育方針を持ってやっています。それをこの際に、こども園になった内容を整理していただいたものを皆さんに見ていただきたいという意図で、一緒につけさせていただきました。これについての詳細な説明する時間がなく申し訳ないですが、ぜひ見ていただきたらありがたいです。このような形で、吉野町の教育の質をできるだけ維持する、或いは高める方法で、人数が減るという部分に対応できることがなかなかないのが実態ですが、その中でも、質を維持して、子供たち本位で物を考えるということをやってきていただいたかな、或いはこれからもやっていきたいと思っています。

先ほど話ありましたが、今、お子さん方も多様化しています。そのことに、ちゃんと向き合って体制を整える。或いは広い吉野町に少ない学校ということで、通学の時間、非常に長くなっているのも実態です。そのことにも目を背けず検討の中に、載せていきたい。できるものなら努力はさせていただきます。すべてのこども園の子どもたちはわかば・よしの両方、吉野さくら学園に結局一つの学校に進学していく。

先日わかばこども園の運動会を見させていただき、少ない人数ではありましたが、熱心に、子供たちは自分たちでこんなにも動くんだと感じさせていただく運動会を見させていただきました。日頃の努力が目には浮かびながら元気をもらって、帰らせていただきました。それぞれいいところ、課題を論議いただき、こういう方向で進もうかなあということを、一つに、いろんな意見を出し合いながら、今後、吉野町の教育の進展につながるものだと信じております。それぞれが疑心暗鬼になるのではなく、こっちの方向に進もうじゃないかという論議をしっかりしていただけたら、ありがたいと思います。今年度 2 回、来年度も数回あります。ご協力よろしくお願いします。

事務局 会長、副会長、各委員の皆様ありがとうございました。

次回の審議会は 12 月中旬を予定しています。事務局では本日いただきました貴重なご意見をとりまとめ、アンケートで配布する結果を分析して、次回の審議会であり方の方針の素案をお示しできるように努めてまいります。素案の見通しが立ちましたら早い段階で第 2 回審議会のご案内をさせていただきますので、何卒よろしく願いいたします。

それではこれもちまして、第 1 回吉野町教育振興審議会を閉会致します。本日はありがとうございました。

